

第7回 オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会**議事概要**

1. 日 時：平成28年9月9日（金）13:00～15:00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館5階 共用会議室C

3. 出席者：（敬称略）

引原（座長）、喜連川（副座長）、有川、黒川、小島、末吉、高木、谷藤、林、藤井、村山の各構成員、生川審議官、真子補佐

4. 議事**（1）座長選任**

本検討会の座長について、有川委員からの申し出により、事務局から引原委員を座長として新たに選任。

（2）プレゼンテーション

有識者から、オープンサイエンス推進に向けた取組について、プレゼンテーションが行われた。

- ・ 「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」（日本学術会議オープンサイエンスの取組に関する検討委員会委員長 土井美和子（第三副部長））

<発表のポイント>

- ✓ 日本学術会議における検討委員会で対象とするオープンサイエンス領域
- ✓ 同委員会において検討がなされたオープンサイエンスの論点整理
- ✓ 日本学術会議からの提言（3点）

（3）事務局説明

事務局より、「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」結果概要について説明が行われた。

（4）主な意見等

上記のプレゼンテーション及び事務局説明を踏まえた意見交換が行われた。

(本検討会で議論及び検討すべき事項の確認)

- 研究データの管理基盤の構築を検討するにあたり、個人情報保護法との関係が整理し切れていないなかでも、様々な論点が挙げられることが想定されることから、法的側面からの議論が必要。これと並行して、大学研究機関等がフォローできる体制、学協会との連携や関係省庁からの後押しされるような仕組みが重要。
- 研究データ等の資源を更に強固するにあたり、その資源が円滑に循環する仕組みを考えていく必要がある。
- 研究分野によって、オープンサイエンスという言葉の理解、方法、進捗状況、権利関係が異なるなかで、本検討会では、学問領域を超えた日本としての視点から、オープンサイエンスに取り組むべき姿勢やメッセージを発信し、これが具体的に各分野へ伝わり、場合によっては政策や研究資金配分にも反映されるような姿を示していかなければならない。
- オープンサイエンスの推進が進んでいる分野で生じた課題を明示的に共有する場として本検討会を活用し、課題等の事例に基づいて、オープンサイエンスを推進すべき目標点やタイムスパン等が示されたロードマップを描いていくことが重要。
- 次回の検討会では、これまでの課題を整理し、今後の進め方について、事務局から説明していただきたい。

5. その他

次回の会議日程については、日程調整の上、連絡する。